囚徒おぼえ書（最終回）
覚えあとがき

二十四分会（本所）　武松輝男

「囚徒おぼえ書」の連載をはじめてみてわかったことだが、三池労組員をはじめ職組、三池新労組あるいは歴史の好きな一般市民の方々など、実に多くの人びとが「みいけ」を待ちわびて読んでもらった。三池炭鉱の発展の歴史、なかでも発展の陰で苦しみもだえて、炭鉱発展史の中で顔ものぞかせない坑夫たちへの関心の深さに驚いたものであった。

この「囚徒おぼえ書」を読みはじめた人から、ほとんどきまったように、「連載はいつまで続くのか」という質問を受けた。なかには「どういう資料を使ったか、どこにその資料があるか」という質問もあったが、連載の回数が大半であった。

そこで「十二回で終ることにしている」と答えると、これもきまって「もう書くことがないのだろう」と、へんに詰問されたようになった。これにはいささか閉口した。その気迫に押されてヨタヨタしたというか、それでつい人の良さも手伝って「書こうと思えばまだあるよ」と口をすべらしてしまったものだ。

詰問に対する返答のタイミングが悪いからか、ほとんどの人が疑いのカゲをみなぎらせる。正直いって、私自身もいずれ稿を改めるか、あるいは一冊の本にするかはそれはその時に考慮するにしても三池炭鉱の裏面史というか、囚徒坑夫の内面史というか、その言い方はいろいろあるだろうが、書いてみたいと思っていた。

それで、どういうものを書こうと思っているか披れきしてみようと思う。それがまた前に述べたような疑いを晴らすだろうから。

まず、囚徒橋と看守監視所と天秤肩替えの話。囚徒島のこと。脱獄した囚徒の話。囚徒医者と囚徒、坊さんの話。看守官舎の大掃除の話など。坑内労働に関係するものは男色と就労逃避の話。坑内暴動とダイナマイト事故の話。坑内馬にかみつかれた囚徒坑夫の話などである。

こんなふうに列挙してしまうと内容が雰囲気として理解される程度である。それでは味気ないので少し肉づけをしてみよう。

たとえば囚徒橋がなぜ造られたか。なぜ人の目にふれないようにするのか。その囚徒の隊列というのは何人であったのか。その隊列に何人の看守がついていたか。

ある日その囚徒隊列に向かって正座したいたいけな子供が、「父上」と呼びかける。隊列の中ほどから「息災か」と答えたという華族さんと呼ばれた囚徒の話などが含まれる。

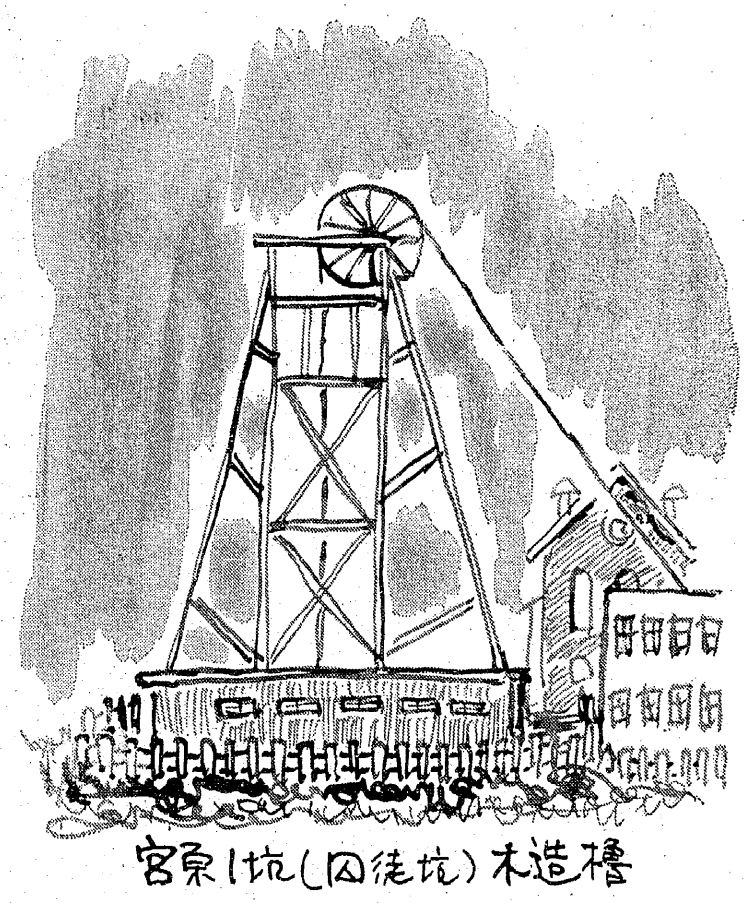
坑内で、ある作業についたときフンドシが貸与された。そういう制度については、いまはとても理解してもらえないと思っている。

明治四十五年、大牟田ではじめてコークスガスからの副産物回収装置が設けられる。そのあとセキを切ったように、ガスタール工場をはじめとして石炭化学の各工場が建てられていく。

このことは、多くの資本投下に見合った、きわめて速度の早い利益回収と資本蓄積が求められることでもあった。その加速度をつけた利益回収と資本蓄積のために、石炭化学の原料「石炭」の増産がもくろまれた。石炭の増産は、別の言い方をすれば、坑道の掘削と切羽の開設である。これらの生産拡大の方策が、囚徒坑夫へのフンドシ貸与という形であらわれるのであった。

私たちはいま、電気器具だ自動車だといって、近代文明の産物で生活を享受している。

このように、近代文明は私たちが住んでいるその地面の下で、誰がつけたのかわからない他人のフンドシを身につけ、湧出水や落盤といった生と死を分かつギリギリの崖っぷちで、繰り返される囚徒坑夫たちの酸鼻をきわめた生きざまの上に成り立っていると言っていい。文明の影にかくれた闇に光を当てなければならない、と私は思う。



三池主婦会では、五月二十四日から三十日までの間、十六カ所で夜八時から約二時間（早いところでは七時半から）交流座談会を開きました。

地域によっては、二～三校区分会が一同に集まるなど大変だったと思いますが、出席状況は平均七割程度で、分会によっては全員参加のところもあり、交流座談会が待ち望まれていることがうかがわれ、会員相互の理解と執行部との意見交換の場として意義ある座談会をおわることができました。

交流の内容としては、主に会員の方からナマの声を聞かせていただくことにありますが、今日まで取り組んできた諸活動のこと、主婦会運動をどうみつめ直していくのかということと、組合・主婦会への要望などでしたが、忌憚のない率直な意見が出され、心強く感じました

主な意見を報告しますと、

一、主婦会の総一行事について

全会員が顔を合わせ、励まし合ったり懐しんだり、そして意志統一する場として、ぜひ取り組んでほしい。日ごろ体を休めることも少なく、会員も高年齢化しているので温泉などがいいと思う。参加の意見が出されましたが、組合・主婦会への要望として

※社宅内では、新労関係で坑内の災害で入院する話が多い。労働災害を起こさせないために、また私たちの関心を呼び起こすためにも、災害発生の現状などを機関紙「みいけ」に載せてほしい。

※社宅環境整備費の名目で社宅では五百円ですが、アパートでは千円になっている。どうなっているのだろうか。

※年金受給の親の場合、扶養からはずされ国民健康保険に切り替えられているが、三井健保だけなのか、現状を知らせてほしい。

※「主婦会しんぶん」は、もっと幅広い内容（弱音もはけるように）にしてほしい。

※外来の組織化に努力してほしい。

などの意見が出されました。

主婦会としても組合との合同会議をもち、会員の皆さんから寄せられた貴重な意見を生かしながら、主婦会運動を前進させていきたいと考えています。ご協力ありがとうございました。

（この項主婦会事務局）

二、敬老会について

主婦会運動の一つの柱であり、つづけてほしい。参加できない主な理由は健康状態によるものですが、参加者の意見としては、山麓あたりの距離だと一日ゆっくりできるので喜ばれる。

このほかいろいろな取り組みへの意見が出されましたが、組合・主婦会への要望として

※社宅内では、新労関係で坑内の災害で入院する話が多い。労働災害を起こさせないために、また私たちの関心を呼び起こすためにも、災害発生の現状などを機関紙「みいけ」に載せてほしい。

※社宅環境整備費の名目で社宅では五百円ですが、アパートでは千円になっている。どうなっているのだろうか。

※年金受給の親の場合、扶養からはずされ国民健康保険に切り替えられているが、三井健保だけなのか、現状を知らせてほしい。

※「主婦会しんぶん」は、もっと幅広い内容（弱音もはけるように）にしてほしい。

※外来の組織化に努力してほしい。

などの意見が出されました。

主婦会としても組合との合同会議をもち、会員の皆さんから寄せられた貴重な意見を生かしながら、主婦会運動を前進させていきたいと考えています。ご協力ありがとうございました。

（この項主婦会事務局）

貴重な意見を今後に
交流座談会を終えて
――主婦会――

女の見る目
平和を願う友へ

小浜北　一主婦

平和、へいわ、なんと美しく響きの良い言葉でしょう。平和の嫌いな民族はいないと思うのに、なぜ戦争が起こるのでしょうか。

最近のフォークランド問題のニュースを見るにつけても、夫や息子を悲しみにくれながら見送らなければならない女達の気持ち……きっと一番平和を望んでいるのではないでしょうか。

今、平和の灯は、ゆらめいています。三十五年目の平和憲法の周辺が騒がしくなってきました。誰のための、改憲なのでしょうか。

先日熊本で行なわれた「平和を守る婦人の集会」に参加しましたが、若い人たちが大勢参加されていて、とても力強く感じました。特に、まだオムツもとれない赤ちゃんをおんぶした若いお母さんが、力一杯のシュプレヒコールに汗を流している姿は大変に感動的でした。

それにしても、「平和を守る婦人の集会」などといわなくても、男も女も平和は守るべきだし、それが当たり前のことですよね。この便りを書いている時に、五年前、横浜市で起こった米軍機墜落事故で子供二人を亡くされ、ご自分も闘病生活の末、亡くなられた和枝さんに関するニュースが放映されました。戦時下でもない平和な日本で、庶民のささやかな平和を打ち壊したこの事故、おそろしいだけで片付けられるものでしょうか。あらためて怒りがこみ上げてきました。

今こそ私たちは、平和に生き続ける、より確かな道を切り開くため、たとえわずかな前進しか得られなくとも、総力を結集しなければならない時期に来ているのではないでしょうか。

「平和を守る婦人の集会」に参加して思ったことを、お便りしました。それではお元気で。

短歌　反核の波

二十分会（三川）　町　佳郎

うだるごとき暑さ襲い来昼すぎに雨降ると告げし予報当らず
土ほこり舞い立つ車道をよぎりゆく連なりし鉱車のすきたるのちに
なすきゅうりとまと茵いくつ植えいしが花を結びてはや実をつけんとす
ひとつうた思いあぐねて夕つ時ひなげしの群るる角曲り来つ
反核の集会とみに増え来つつ今日同僚（とも）の一人が動員し行けり
木せいの群葉にそそぐ夜半の雨うだるごとき二週間の暑き日のあと
リラ冷えとう予報も聞きつうだるごとき日々過ぎてより数日の寒
三十万が四十万にふくれし人の波反核は東京を覆うごとくに（五・二三反核東京集会）
母の名を呼びつつ逝きしか双手広げ黒こげのむくろは地にころがれり（原爆写真）
起きいでて陽に向い立つ庭先に開花まじかき紫苑のいくつ

【訂正】前号六首目〝復帰十年慶びなどいわぬ〟は、〝いわね〟が正しく、おわびして訂正いたします。

生活メモ

○…六月十一日は暦の上での入梅。梅の実が熟した時期にみられるので、梅雨と名づけられたとの説があります。梅雨前線が日本の空に停滞し、じとじとと雨の多い日が続きます。湿度が高く、健康もそこないがちです。こんな時こそ、うっとおしい梅雨を晴れやかに乗りこなすための生活・健康対策が必要です。カビ、食中毒予防や子どもの消化器系の病気の予防など、医学・衛生について気を配り、住まいの長雨対策、部屋の模様替えなども工夫したいものです。梅雨の中休みは家庭にとっても大切な晴れ間。たまった洗濯や屋内の風通しはもちろん、屋外で身体を動かしたりしてリズムを整えましょう。

○…「歯の衛生週間」がありました。日本は虫歯の多い国だそうですが、菓子などの甘味、栄養状態、歯のみがき方に原因があります。歯をみがく時、歯ブラシに歯みがきをたくさんつけると、ブラシがすべってかえってよくみがけません。みがく回数を増やして、ブラシだけでからみがきする方がきれいになります。歯みがきをつけるのは、味や香り、刺激でみがきやすくするためでメーカーが宣伝するような「歯を丈夫にする」効果はほとんど期待できません。